

## 第2学年 単元の目標と評価の具体例

2年上巻

◎ 算数の とびら (算数の 学しゅうの すすめ方)					
目 標					指導時数・時期
○ (何十何)±(何十)の暗算について、図、式、ことばなどを関連づけて考えたり筋道立てて説明しあったりすることを通して2位数の加減計算についての理解を深めるとともに、学びを深めあう算数学習の進め方のよさに気づき今後の学習にいかそうとする態度を養う。					1時間 2学期制：4月上旬 3学期制：4月上旬
評 価					
(知)・算数の学習を進める手順を知り、図、式、ことばなどを用いて考えたり、説明したり、話しあったりすることのよさを理解している。					
(思)・図、式、ことばなどを関連づけて考えたり、わかりやすく筋道立てて説明したりしている。					
(態)・自らが主体となる学習の進め方に関心をもち、話し合い活動や発表に進んで取り組んでいる。 ・学習を進める手順や話し合いの仕方などをふり返り、これからの学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	4～9	○100までの数の(何十何)±(何十)の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話しあいのやり方など算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話しあう算数学習の進め方のよさに気づく。	・学習の進め方 ・(何十何)±(何十)の暗算 ・ノートのかき方 ・数学的な見方・考え方	(思判表)(何十何)+(何十)の計算の仕方を考えたり、ことばや図などを用いてわかりやすく順序立てて説明したりしている。《発言・観察》 (知技)(何十何)±(何十)の計算ができる。《観察・ノート》 (態度)学習を進める手順や話しあいの仕方などをふり返り、これからの学習にいかそうとしている。《観察・ノート》

1 ひょうと グラフ					
目 標					指導時数・時期
○ 身のまわりの数量について、表やグラフを用いた分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考えたり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する素地を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4時間 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬
評 価					
(知)・身のまわりの事柄について、簡単な分類・整理の仕方を理解し、表やグラフに表したり、それをよんだりすることができる。					
(思)・身のまわりの事柄について、表やグラフを用いてその特徴を考えている。					
(態)・身のまわりの事柄を調べることに進んで関わり、ふり返りを通して表やグラフに整理することで特徴がとらえやすくなるよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	122	○既習事項の理解を確かめる。	・1年「かずしらべ」	
課題設定	1	10～12	○好きな遊びの調べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・好きな遊び調べの動機づけ ・分類・整理の仕方の考察	(態度)どんな遊びが人気なのかを知りたいという意欲をもち、取り組もうとしている。《発言・観察》
	2	13	○表や●グラフについて知る。 ○表や●グラフを用いて、分類・整理したり、そこから事柄の特徴を考えたりすることができる。	・表と●グラフのつくり方、よみ方 《ひょう、グラフ》	(思判表)表やグラフから、事柄の特徴を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	3	14～15	○調べたい観点を決めて、表や●グラフに整理することができる。 ○データが同じでも観点が違えば、表や●グラフからわかることが違うことに気づくことができる。	・データ整理の観点に着目して、表やグラフを用いて特徴を考察すること	(知技)それぞれの観点で、表やグラフに整理することができる。《ノート》 (態度)調べたいことにあわせて表やグラフに整理することに意欲的に取り組み、生活や学習に生かそうとしている。《発言・観察》
学びのまとめ	4	16～17	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

2 たし算と ひき算					
目 標					指導時数・時期
○ 2位数の加減計算について、(2位数)±(1位数)の暗算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、簡単な加減計算を暗算でできるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					5時間 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬
評 価					
(知)・(2位数)±(1位数)の暗算の仕方を理解し、その計算を暗算ですることができる。					
(思)・既習の1位数の基本的なたし算やひき算をもとに、簡単なたし算とひき算の計算の仕方を考え、説明している。					
(態)・簡単なたし算とひき算の計算に進んで関わり、ふり返りを通して何十のまとまりに目をつけると暗算で処理できるよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	122	○既習事項の理解を確かめる。	・1年「10より おおきい かず」	

課題設定 ①たし算	1	18	○既習の17+2をもとに17+3と式に表して単元の課題をつかむ。	・既習の(2位数)+(1位数)によるたし算の暗算への動機づけ	(思判表)(何十何)+(何)で何十になる暗算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
		19	○暗算の仕方を考え、(何十)+(何)で和が何十になる暗算ができる。	・(2位数)+(1位数)で何十になる暗算、何十の補数	(知技)(何十何)+(何)で何十になる暗算ができる。《ノート・発言》
課題設定 ②ひき算	2	20~21	○数のまとまりに着目して、(何十)+(何)で繰り上がって何十何になる暗算ができる。	・(2位数)+(1位数)で繰り上がりのある暗算	(態度)(何十何)+(何)の暗算の仕方を声に出すなどして意欲的に身につけ、生活や学習にいかそうとしている。《観察》
		22	○数のまとまりに着目して、(何十)+(何)で繰り上がって何十何になる暗算ができる。	・(2位数)+(1位数)で繰り下がりのある暗算	(知技)(何十何)+(何)で繰り上がって何十何になる暗算ができる。《ノート・発言》
課題設定 ③ひき算	3	22	○既習の19-8をもとに20-8と式に表して単元の課題をつかむ。	・既習の(2位数)-(1位数)によるひき算の暗算への動機づけ	(思判表)(何十)-(何)で何十何になる暗算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
		23	○暗算の仕方を考え、(何十)-(何)で差が何十何になる暗算ができる。	・(何十)-(1位数)の暗算	(知技)(何十)-(何)で何十何になる暗算ができる。《ノート・発言》
課題設定 ④ひき算	4	24~25	○数のまとまりに着目して、(何十何)-(何)で繰り下がって何十何になる暗算ができる。	・(2位数)-(1位数)で繰り下がりのある暗算	(態度)(何十何)-(何)の暗算の仕方を声に出すなどして意欲的に身につけ、生活や学習にいかそうとしている。《観察》
		26	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)
学びのまとめ	5	26	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)

### 3 時こくと 時間

3 時こくと 時間					
目 標					指導時数・時期
○ 時刻や時間について、その意味の違いを理解し、時計を操作する活動を通して時間を求めたり午前・午後を用いて適切に時刻を表現したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4時間 2学期制：4月下旬 3学期制：4月下旬
評 価					
(知) ・時刻と時間の違い、午前と午後の区別や正午の意味、日・時・分の関係がわかり、時計の針の動きをもとに、時刻や時間を求めることができる。					
(思) ・日常生活と関連づけて、時刻や時間について調べたり、午前や午後といった用語を適切に用いて表現したりしている。					
(態) ・1日の生活の中にある時刻と時間に進んで関わり、ふり返りを通して時刻や時間を適切にとらえたり、表現したりすることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	122	○既習事項の理解を確かめる。	・1年「なんじ なんぶん」	
課題設定	1	27	○1日の生活場面の時間を調べることを通して、単元の課題をつかむ。	・1日の生活時間の動機づけ 《時こく、時間》	(態度)時刻や時間の学習を生活と結びつけて、意欲的に取り組もうとしている。《発言・観察》
		28	○時計の針の動きから簡単な時刻と時間を求めることができる。	・時刻と時間の意味、簡単な場合の時間の調べ方 《1分》	(知技)時刻や時間を正しく求めることができる。《発言》
	2	29	○1時間が60分であることを知り、簡単な時間や時刻を求めることができる。	・1時間=60分、1時間をこえる時間の調べ方 《1時間》	(知技)1時間は60分であることを理解している。《発言・観察》 (思判表)時刻と時間の関係をもとに、特定の時間だけ前や後ろの時刻の求め方を考えている。《観察・ノート》
課題設定	3	30~31	○午前・午後の区別と正午の意味や1日は24時間であることを知り、午前・午後を使って時刻を表すことができる。	・午前と午後の区別、正午、1日=24時間 《午前、午後、正午》	(知技)1日は24時間であることを理解し、午前や午後を使って時刻を表すことができる。《発言・観察》
					(思判表)時刻と時間の関係をもとに、正午をまたいだときの時間の求め方を考えている。《観察・ノート》
学びのまとめ	4	32~33	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

### 4 長 さ

4 長 さ	
目 標	指導時数・時期
○ ものの長さについて、その比べ方や普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通してものさしで長さをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。	8時間 2学期制：5月上旬～5月中旬 3学期制：5月上旬～5月中旬

評 価					
(知)	・ものさしの仕組みや使い方、長さの単位「cm」「mm」のよみ方やかき方、単位の関係を理解し、長さを「cm」「mm」の単位を用いて表すことができる。また、ものさしを使って、長さを測定したり直線をかいたりすることができる。				
(思)	・長さの普遍単位の必要性に気づいている。また、量感をもとに長さを予想したり適切な単位を判断したりしている。				
(態)	・長さの測定や表し方の学習に進んで関わり、ふり返りを通して長さにあわせて適切な普遍単位を使うことや長さの量感を身につけておくことよき気づき、生活や学習にいかそうとしている。				
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	122	○既習事項の理解を確かめる。	・1年「おおきさくらべ」	
(課題設定)	1	34	○長さの比べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・任意単位の測定による普遍単位の動機づけ	(思判表)共通の単位の必要性に気づいている。《観察・発言》
		35	○普遍単位の必要性に気づき、1cmのいくつかで長さを表すことができる。	・普遍単位 cm の意味と長さの表し方 《センチメートル(cm)、1cm、たんい》	(態度)長さ調べに意欲的に取り組もうとしている。《観察・発言》 (知技)cm 単位で長さを表すことができる。《発言・ノート》
	2	36～37	○ものさしで長さを正しく測ることができる。	・長さの測り方、cm での測定	(知技)ものさしを使って長さを正しく測ることができる。《観察・発言》
	3	38～39	○30cm ものさしの目盛りを正しくよむことができる。 ○長さの単位 mm について知り、1mm のいくつかで長さを測定することができる。	・普遍単位 mm の意味と mm までの測定、1cm=10mm 《ミリメートル(mm)、1mm》	(知技)30cm ものさしの仕組みや1cm=10mm であることを理解している。《観察》 (知技)30cm ものさしで、mm 単位まで長さを測ることができる。《観察・発言》
	4	40	○直線の長さを測ることを通して、cm と mm の単位の関係の理解を深める。	・cm と mm の相互の関係 《直線》	(思判表)cm と mm で表した長さを mm 単位でどう表せばよいかを考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
	5	41	○10cm の長さのテープを切り取ることを通して、10cm の量感を身につけることができる。 ○身のまわりの 10cm をこえるものの長さを見当づけたり測ったりする。	・10cm の長さづくり (量感)、10cm の長ささがし ・身のまわりの長さの見積もりと測定	(態度)10cm の長さの量感を身につけ、生活や学習にいかそうとしている。《観察》 (思判表)10cm の量感をもとに、身のまわりのものがどのくらいの長さかを判断している。《観察・ノート》
	6	42～43	○ものさしを使った直線のかき方を理解し、示された長さの直線をかきことができる。	・ものさしを使った直線の作図	(知技)ものさしを使って、7cm の直線をかきことができる。《観察・ノート》
	7	44	○簡単な長さのたし算やひき算の計算ができる。	・長さの加減計算	(思判表)単位に着目して、長さの計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)簡単な場合の長さの計算ができる。《ノート》
学びの まとめ	8	45～46	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

5 たし算と ひき算の ひっ算(1)					
目 標				指導時数・時期	
○ 2 位数の加減計算について、(2 位数)±(2 位数)の筆算の仕方や答えの確かめ方を考えたり説明したりすることを通して、計算の理解を深め、繰り上がりや繰り下がりのある筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11 時間 2 学期制：5 月下旬～6 月上旬 3 学期制：5 月下旬～6 月上旬	
評 価					
(知)	・筆算の仕方を理解し、(2 位数)±(2 位数)の筆算を、一の位から順に、繰り上がりや繰り下がりに気をつけて、手際よく計算することができる。				
	・加法及び減法に関して成り立つ性質を理解することができる。				
(思)	・十進位取り記数法の仕組みをもとに、(2 位数)±(2 位数)の筆算の仕方を考え、説明している。				
	・加法及び減法に関して成り立つ性質を使って、計算結果を確かめている。				
(態)	・(2 位数)±(2 位数)の筆算に進んで関わり、ふり返りを通して筆算の仕方よきや計算に関して成り立つ性質、答えの見当づけや確かめの意義に気づき、生活や学習にいかそうとしている。				
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	123	○既習事項の理解を確かめる。	・1年「大きい かず」	
(課題設定)	1	47	○筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。	・計算棒を縦に並べる操作による筆算の動機づけ	(態度)数を縦に並べて計算する仕方に意欲的に取り組み、そのよきに気づいている。《観察》
①たし算		48～49	○(2 位数)+(2 位数)で繰り上がりのないたし算を筆算で計算する。	・(2 位数)+(2 位数)で繰り上がりのない筆算 《ひっ算》	(知技)繰り上がりのないたし算の筆算ができる《ノート》
	2	50	○(2 位数)+(2 位数)で一の位に繰り上がりのある筆算ができる。	・(2 位数)+(2 位数)で一の位が繰り上がる筆算 《くり上げる》	(思判表)繰り上がりのあるたし算の筆算の計算の仕方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)繰り上がりのあるたし算の筆算ができる。《ノート》

	3	51	○(2位数)+(何十)の場合や繰り上がって一の位が空位になる場合、桁数のそろっていない場合の筆算ができる。	・(2位数)+(何十)の筆算、一の位が空位になる筆算 ・(2位数)+(1位数)の筆算、(1位数)+(2位数)の筆算	(知技)空位のあるたし算の筆算ができる。《ノート・発言》 (思判表)空位のある場合も、それまでと同じように考えて筆算の仕方を見いだしている。《ノート・発言》
	4	52～53	○たし算について、交換法則が成り立つことを知る。 ○交換法則を使って、たし算の答えを確かめることができる。	・加法の交換法則、たし算の答えの確かめ 《たされる数、たす数》	(知技)たし算のきまりを理解し、たし算の答えを確かめることができる。《観察・発言》 (態度)たし算の答えの確かめに意欲的に取り組み、学習にいかそうとしている。《観察》
●れんしゅう	5	54	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
②ひき算	6	55	○(2位数)-(2位数)で繰り下がりのない場合の筆算ができる。	・(2位数)-(2位数)で繰り下がりのない筆算	(知技)繰り下がりのないひき算の筆算ができる。《ノート・観察》
	7	56	○(2位数)-(2位数)で繰り下がりのある場合の筆算ができる。	・(2位数)-(2位数)で十の位が繰り下がる筆算 《くり下げる》	(思判表)繰り下がりのあるひき算の筆算の計算の仕方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)繰り下がりのあるひき算の筆算ができる。《観察・ノート》
	8	57	○(2位数)-(2位数)で繰り下がって答えが1桁になる場合や(2位数)-(1位数)の筆算ができる。	・十の位が空位になる筆算 ・(2位数)-(1位数)の筆算	(知技)空位のあるひき算の筆算ができる。《ノート・発言》 (思判表)空位のある場合も、それまでと同じように考えて筆算の仕方を見いだしている。《ノート・発言》
	9	58～59	○ひき算の答えにひく数をたすとひかれる数になることがわかる。 ○たし算を使って、ひき算の答えを確かめることができる。	・加減の相互関係、ひき算の答えの確かめ 《ひかれる数、ひく数》	(知技)(答え)+(ひく数)=(ひかれる数)になっていることを理解し、ひき算の答えを確かめることができる。《観察・発言》 (態度)ひき算の答えの確かめに意欲的に取り組み、学習にいかそうとしている。《観察》
●れんしゅう	10	60	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
学びのまとめ	11	61～62	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

\* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	63	○既習事項の確認と持続	・復習	

思 見方・考え方を ふかめよう(1)「ほうかご 何する？」

目 標			指導時数・時期		
○ 加法や減法の文章題の解決を通して、数量の関係をテープ図に表して未知数の求め方を考えることができるようにし、また、加法や減法の場面や計算の関係についての理解を深めるとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。			5時間 2学期制：6月中旬 3学期制：6月上旬～6月中旬		
評 価					
(知) ・加法や減法が用いられる場面について理解し、数量の関係を線分図(テープ図)に表すことができる。					
(思) ・逆思考を必要とする問題について、数量の関係を線分図(テープ図)に表して考えている。					
(態) ・加法や減法が用いられる場面の問題解決に進んで関わり、ふり返りを通して問題場면을線分図(テープ図)に整理して考えることよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	64～65	○数量の関係をテープ図を使って表すことができる。 ○増えた数を求める逆思考の問題をテープ図にかいて考え、解くことができる。	・増加の場面で増えた数量を求める逆思考の問題 (a+□=b)	(知技)問題場面を理解し、数量の関係をテープ図に表すことができる。《ノート》 (思判表)数量の関係をテープ図に表し、それをもとに考えている。《発言・ノート》
	2	66～67	○数量の関係をテープ図を使って表すことができる。 ○減った数を求める逆思考の問題をテープ図をもとに考え、解くことができる。	・求残の場面で減った数量を求める逆思考の問題 (a-□=b)	(知技)問題場面を理解し、数量の関係をテープ図に表すことができる。《ノート》 (思判表)数量の関係をテープ図に表し、それをもとに考えている。《発言・ノート》
	3	68	○テープ図を問題解決に進んで用いようとする。 ○増える前の数を求める逆思考の問題を、テープ図をもとにして考え、解くことができる。	・増加の場面で増える前の数量を求める逆思考の問題 (□+a=b)	(態度)数量の関係をテープ図にかいて意欲的に考えようとしている。《ノート》 (思判表)逆思考の問題を解くのに、テープ図をもとに考えている。《発言・ノート》

4	69	○テープ図を問題解決に進んで用いようとする。 ○減る前の数を求める逆思考の問題を、テープ図にかいて考え、解くことができる。	・求残の場面で減る前の数量を求め る逆思考の問題 ( $\square - a = b$ )	(態度)数量の関係をテープ図にかいて意欲的に考えようとしている。《ノート》 (思判表)逆思考の問題を解くのに、テープ図をもとに考えている。《発言・ノート》
5	70~71	○算数の問題をつくり、その問題文に あう図や式を考えることができる。	・加減の場面における文章、図、式の 相互理解	(思判表)場面や数量の関係に着目して、 問題にあう図や式を考えている。《ノート・ 発言》 (態度)問題場面をテープ図にかくこと のよさに気づき、生活や学習に いかそうとしている。《ノート》

## 6 100 を こえる 数

目 標	指導時数・時期
○ 100 をこえる数について、そのよみ方やかき方を理解し、10 や 100 を単位として数をとらえたり順序や大小、加減計算の仕方を考えたりすることを通して、十進法の理解や数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。	12 時間 2 学期制：6 月下旬～7 月上旬 3 学期制：6 月中旬～7 月上旬

評 価
(知) ・1000 までの数の表し方や仕組みを理解し、十進位取り記数法の仕組みをもとにして、1000 までの数を表したりよんだりすることができる。また、等号や不等号の使い方を理解することができる。 (思) ・1000 までの数について、100 までの数と同じように、10 や 100 などを単位としてそのいくつか分とみて表現したり、加減計算の仕方を考えたりしている。また、等号や不等号を用いて大小関係を式に表している。 (態) ・1000 までの数と大小の表し方に進んで関わり、ふり返りを通して十進位取り記数法や等号・不等号を用いることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	— 1	123 72~73 74	○既習事項の理解を確かめる。 ○100 をこえる数の表し方や仕組みを調べていくという単元の課題をつかむ。 ○10 や 100 のまとまりに着目して、100 をこえる数の数え方やよみ方を理解する。	・1 年「大きい かず」 ・10 ずつまとめて数える操作による動機づけ ・100 をこえる数のよみ方	(態度)100 をこえる星の数を、工夫して数えようとしている。《観察》 (知技)100 をこえる数の構成とよみ方を理解している。《観察・発言》
①100 を こえる 数	2	75	○3 位数について、十進位取り記数法にもとづいて、数字で表したり数の構成を説明したりすることができる。	・1000 未満の数の表し方、数構成(空位のない場合) 《百のくらい》	(知技)3 位数を数字で表したり、3 位数の構成を説明したりすることができる。《観察・発言》
	3	76	○空位のある 3 位数について、十進位取り記数法にもとづいて、数字で表したり数の構成を説明したりすることができる。	・1000 未満の数の表し方、数構成(空位のある場合)	(思判表)空位のある場合の 3 位数の表し方とその構成を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
	4	77	○10 を単位として、そのいくつか分になるかを考え、数の相対的な大きさをとらえることができる。	・10 を単位とする数の相対的な見方	(思判表)10 を単位にして、数の大きさを考えている。《観察・ノート》 (知技)10 を単位にした数の構成や分解ができる。《ノート・発言》
	5	78	○100 のまとまりをつかって数える操作を通して、1000 という数を知り、1000 という数の構成や数の系列をとらえることができる。	・1000 という数の意味 《千》	(知技)1000 のまとまりを数えることを通して、1000 という数の大きさをとらえることができる。《観察》
	6	79	○数直線の目盛りの大きさに着目し、1000 までの数の系列や順序を理解することができる。	・数直線、1000 までの数の系列 《数の直線》	(思判表)数直線を使って、数の系列や順序をいろいろにとらえている。《発言・ノート》
	7	80	○十進位取り記数法の仕組みをもとに考え、3 位数の大小を比較することができる。	・1000 までの数の大小比較 《>, <》 ・算数探しの活動(身のまわりの1000 までの数)	(思判表)3 位数の大小の比較の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)不等号を使って、数の大小関係を表すことができる。《ノート・発言》 (態度)身のまわりから 100 をこえる数を見つけるなど、学んだことを生活や学習にいかそうとしている。《観察》
	●れんしゅう	8	81	○学習内容を確実に身につける。	・練習
①たし算と ひき算	9	82	○10 を単位とした数の相対的な見方を働かせて、(何十)+(何十)で答えが(百何十)のたし算やその逆のひき算ができる。	・10 を単位とする簡単なたし算、ひき算	(思考表)10 を単位として、(何十)+(何十)、(百何十)-(何十)の簡単な計算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)10 を単位として、簡単なたし算やひき算の計算ができる。《ノート・発言》

学びのまとめ	10	83	○100を単位とした数の相対的な見方を働かせて、(何百)+(何百)≦1000やその逆のひき算ができる。	・100を単位とする簡単なたし算、ひき算	(思判表)100を単位として、(何百)±(何百)の計算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)100を単位として、簡単なたし算やひき算の計算ができる。《ノート・発言》
	11	84	○数量の相等関係や大小関係を、等号や不等号を使って式に表すことができる。	・等号・不等号を使った式、等号の意味理解	(知技)数量の相等や大小関係を、等号や不等号を使って式に表すことができる。《発言・ノート》
	12	85~86	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 7 か さ

目 標					指導時数・時期
○もののかさについて、その比べ方や普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通してますでかさをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。					6時間 2学期制：7月上旬～7月中旬 3学期制：7月上旬～7月中旬
評 価					
(知)・ますの使い方や、かさの単位「L」、「dL」、「mL」のよみ方・かき方・相互関係を理解している。また、かさの加減計算ができる。 (思)・かさの普遍単位の必要性に気づき、量感をもとにかさを予想したり適切な単位を判断したりしている。 (態)・かさの測定や表し方の学習に進んで関わり、ふり返りを通してかさにあわせて適切な普遍単位を使うことやかさの量感を身につけておくことよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	123	○既習事項の理解を確認する。	・1年「おおきさくらべ」	
(課題設定)	1	87	○かさの比べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・任意単位の測定による普遍単位の動機づけ	(思判表)共通の単位の必要性に気づいている。《観察・発言》 (態度)かさ調べに意欲的に取り組もうとしている。《観察・発言》
		88~89	○普遍単位の必要性に気づき、1Lますを使ってかさをはかり、1Lのいくつ分でかさを表すことができる。	・Lの定義と1Lますを使った測定 《リットル(L)、1L》	(知技)1Lますを使って、いろいろな入れものに入る水のかさを測定し、L単位で表すことができる。《発言・ノート》
	2	90	○かさの単位dLについて知り、1dLのいくつ分でかさを表すことができる。 ○LとdLの関係を理解する。	・dLの定義(1L=10dL)、L、dLの複数名数の適用題 《デシリットル(dL)、1dL》	(知技)dLについて知り、1L=10dLであることを理解している。《観察》 (知技)かさをLとdLを用いて表すことができる。《ノート》
	3	91	○単位mLを知り、mLとdL、mLとLの関係を理解する。	・mLの定義(1dL=100mL、1L=1000mL) 《ミリリットル(mL)、1mL》	(知技)mLについて知り、1dL=100mLであることを理解している。《観察》 (知技)かさをmLを用いて表すことができる。《ノート》
	4	92	○1Lのかさをいろいろなものに水を入れてつくり、1Lの量感を身につけることができる。 ○1Lの量感をもとにして、身のまわりの入れもののかさを見当づけたりはかたりする。	・1Lのかさづくり(量感)、1Lのかさが入る入れものさがし ・身のまわりの入れものに入る水のかさの測定	(態度)1Lのかさの量感を身につけ、生活や学習にいかそうとしている。《観察》 (思判表)1Lの量感をもとに、身のまわりの入れものがどのくらいのかさを判断している。《観察・ノート》
5	93	○簡単なかさの加減の計算ができる。	・かさの加減計算、単位換算	(思判表)単位に着目して、かさの計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)簡単な場合のかさの計算ができる。《ノート》	
学びのまとめ	6	94~95	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 活 買えますか？ 買えませんか？

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●買えますか？買えませんか？	1	96~97	○1つが100円で買えるか買えないかの判断をもとに、いくつかの品物が何百円で買えるか買えないかを判断し説明することができる。	・見積りの素地(何百円で買えるかどうかの判断)	(思判表)98円のもの5つを500円で買えるかどうかを判断し、その根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)どのように考えれば買えるかどうかを判断できるのかをふり返り、生活や学習にいかそうとしている。《観察・作品》

活 算数の じゆうけんきゅう					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●算数の じゆうけんきゅう	1	98～99	○「線路づくり」などの自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。	・算数の自由研究	(思判表)見通しをもちながら、線路の構成を考えている。《観察》 (態度)線路づくりに意欲的に取り組み、いろいろな線路をつくらうとしている。《観察・作品》

* ふくしゅう					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	100～101	○既習事項の確認と持続	・復習	

8 たし算と ひき算の ひっ算(2)					
目 標					指導時数・時期
○ 3 位数の加減計算について、(3 位数)±(2 位数)の筆算を考えたり説明したりすることを通して、計算や十進位取り記数法の理解を深め、繰り上がりや繰り下がりのある筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					10 時間 2 学期制：9 月上旬～9 月中旬 3 学期制：9 月上旬～9 月下旬
評 価					
(知)・繰り上がりや繰り下がりに気をつけて、正しく筆算で計算することができる。また、繰り上がりや繰り下がり操作を通して、十進位取り記数法についての理解を深めることができる。					
(思)・既習の 2 位数の筆算をもとにして、百の位に繰り上がるたし算とその逆のひき算や、簡単な場合の(3 位数)±(2 位数)の筆算の仕方を考えている。					
(態)・(2 位数、3 位数)±(2 位数)の筆算に進んで関わり、ふり返りを通して筆算の仕方のよさ、答えの見当づけや確かめの意義に気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	123	○既習事項の理解を確かめる。	・2 年「たし算と ひき算の ひっ算(1)」	
(課題設定)	1	102	○答えが 3 桁になるたし算の筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。 ○(2 位数)+(2 位数)で十の位に繰り上がりのある筆算ができる。	・答えが 100 をこえる筆算の動機づけ ・(2 位数)+(2 位数)で十の位が繰り上がる筆算	(態度)既習の 2 位数の筆算をもとに、十の位に繰り上がりがある筆算の仕方を意欲的に考えようとしている。《発言・観察》 (知技)(2 位数)+(2 位数)で十の位に繰り上がりのある筆算ができる。《ノート・観察》
①たし算		103			
	2	104	○(2 位数)+(2 位数)で一の位と十の位に繰り上がりのある筆算ができる。	・(2 位数)+(2 位数)で 2 回繰り上がる筆算	(思判表)既習の筆算の仕方をもとに考えて、繰り上がりが 2 回あるたし算の筆算の仕方を見いだしている。《発言・観察》 (知技)2 回繰り上がるたし算の筆算ができる。《ノート・観察》
	3	105	○3 口のたし算を筆算形式に表し、計算することができる。	・3 口のたし算	(思判表)既習の筆算の仕方をもとに、3 口の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)3 口のたし算の筆算ができる。《ノート・観察》
●れんしゅう	4	106	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
②ひき算	5	107	○(百何十何)−(2 位数)で百の位が繰り下がる筆算ができる。	・(百何十何)−(2 位数)で百の位が繰り下がる筆算	(態度)既習の 2 位数の筆算をもとに、百の位に繰り下がりがある筆算の仕方を意欲的に考えようとしている。《発言・観察》 (知技)(百何十何、百何)−(2 位数)で百の位が繰り下がる筆算ができる。《ノート・観察》
	6	108	○(百何十何)−(2 位数)で繰り下がりが 2 回の筆算ができる。	・(百何十何)−(2 位数)で十と百の位が繰り下がる筆算	(思判表)既習の筆算の仕方をもとに考えて、繰り下がりが 2 回あるひき算の筆算の仕方を見いだしている。《発言・観察》 (知技)(百何十何)−(2 位数)で 2 回繰り下がるひき算の筆算ができる。《ノート・観察》
	7	109	○(百何)−(2 位数)で繰り下がりが 2 桁におよぶ筆算ができる。	・(百何)−(1、2 位数)で十と百の位が繰り下がる筆算	(思判表)記数法の仕組みをもとに、一の位の計算で百の位から繰り下げる仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)(百何)−(2 位数)で繰り下がりが 2 桁におよぶひき算の筆算ができる。《ノート・観察》
●れんしゅう	8	110	○学習内容を確実に身につける。	・練習	

③大きい数のひっ算	9	111	○(3位数)+(2位数)で、百の位に繰り上がらない筆算ができる。 ○(3位数)-(2位数)で、百の位から繰り下がらない筆算ができる。	・(3位数)+(1、2位数)や(3位数)-(1、2位数)の簡単な筆算	(思判表)2位数どうしの筆算の仕方をもとに、(3位数)±(2位数)の筆算の仕方を考えている。《発言・観察》 (知技)(3位数)±(1、2位数)の筆算ができる。《発言・観察》
学びのまとめ	10	112~113	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

思 見方・考え方をふかめよう(2)「こんにちは さようなら」

目 標		指導時数・時期			
○ 数量が増減する文章題の解決を通して、問題場面を図に表して数量の増減に着目して求め方を考えることができるようにし、また、式と計算についての理解を深めるとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。		3時間 2学期制：9月下旬 3学期制：9月下旬			
評 価					
(知)・増減する数量に着目し、「まとめて考える」という考え方を理解することができる。 (思)・増減する数量に着目し、数図ブロックを操作したり、図に表したりして、まとめて考えている。 (態)・数量が増減する場面の問題解決に進んで関わり、ふり返りを通してまとめて考えることよき気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	114~115	○増増の場面の問題を、順に考えたり、増える数に着目してまとめて考えたりして、2通りの考え方で解くことができることがわかる。	・増増の場合について、順に考えたりまとめて考えたりする問題	(思判表)順に考えたり、まとめて考えたりしている。《発言・ノート》 (知技)2通りの考え方を理解している。《観察・ノート》
	2	116	○減減の場面の問題をオペレータに着目して、まとめて考える考え方で解くことができる。	・減減の場合について、まとめて考える問題	(態度)まとめて考えるよき気づき、それを用いようとしている。《観察・発言》 (思判表)オペレータに着目し、それをまとめて考えている。《発言・ノート》
	3	117	○増減の場面の問題を—オペレータに着目して、差し引きいくら増えたことになるかを考えて解くことができる。	・増減の場合について、まとめて考える問題	(思判表)オペレータに着目し、差し引きいくら増えたことになるかを考えている。《発言・ノート》 (知技)図を使ってどれだけ増えたかを求めることができる。《観察・ノート》

9 しきと 計算

目 標		指導時数・時期			
○ 式について、( )の意味を理解し、( )を使って1つの式に表すことができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		1時間 2学期制：9月下旬 3学期制：10月上旬			
評 価					
(知)・加法の結合法則や( )を使った式の計算順序を理解し、( )を使った式の計算ができる。 (思)・増減する数量のまとまりに着目し、( )を用いて1つの式に表している。 (態)・( )を使った式に進んで関わり、ふり返りを通して( )を使うと考え方や数量の関係を簡潔に1つの式に表せることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	118~119	○増増の場面をもとに、加法の結合法則が成り立つことに気づき、( )を使った式の計算順序がわかる。	・加法の結合法則、( )の使い方と計算の順序 《( )》	(思判表)2つの考え方の違いに着目し、式や計算について考えようとしている。《観察・発言》 (知技)加法の結合法則が成り立つことを理解し、( )を使った式で表すことができる。《ノート》 (態度)( )を使って式に表すよき気づき、学習にいかそうとしている。《観察・発言》

\* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	120	○既習事項の確認と持続	・復習	

★ 学びの サポート

ページ	学習内容	指導時数
122~123	・じゅんび	
124~129	・もっと れんしゅう	
132~133	・学びをつなげよう	

※巻末にある「学びのサポート」は少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## 10 かけ算(1)

10 かけ算(1)					
目 標					指導時数・時期
○ かけ算九九について、その意味や式について理解し、ブロックを操作する活動を通してかけ算になる場面をとらえて式にかいたり、かける数が1増えたときの積の増え方に着目して2~5の段の九九を構成したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					16時間 2学期制：10月中旬~11月上旬 3学期制：10月上旬~10月下旬
評 価					
(知)・乗法の意味やその計算の仕方を理解し、2から5の段までの九九を暗唱したり、乗法の適用場面を式に表して答えを求めたりすることができる。					
(思)・ブロック操作をもとに1つ分の大きさや積の増え方のきまりに着目し、九九を構成している。					
(態)・かけ算九九の構成に進んで関わり、ふり返りを通して累加の簡潔な表現としてかけ算の式にかくことや九九のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ (課題設定)	— 1	120 2~5	○既習事項の理解を確かめる。 ○具体的な操作を通して、基準量の「いくつ分」という見方について理解する。 ○何個のいくつ分の表し方や計算の仕方について考えていくという単元の課題をつかむ。	・1年「おなじかずずつ」 ・かけ算の学習の動機づけ ・何個のいくつ分で表すこと	(態度)乗り物に乗っている人数の数え方に関心を持ち、1台の人数に着目して数えようとしている。《観察・発言》 (知技)基準量のいくつ分という見方を理解している。《観察・発言》
①いくつ分と かけ算	2	6~7	○基準量のいくつ分という見方を働かせて、かけ算の意味を理解し、式に表すことができる。	・かけ算の意味、かけ算の式と答えの求め方 《×、かけ算》	(思判表)基準量のいくつ分という見方を働かせて、数図ブロックを並べたりかけ算の式に表したりしている。《観察・ノート》 (知技)かけ算の意味を理解し、式に表すことができる。《発言・ノート》
	3	8~9	○かけ算の用いられる場面を式に表し、その答えを累加で求めることができる。 ○身のまわりから、かけ算の式に表せる場面を見つける。	・かけ算が適用できる場面の理解 ・算数探しの活動(身のまわりのかけ算)	(知技)かけ算の式をかいて、その答えを累加で求めることができる。《発言・ノート》 (態度)かけ算の式のよさに気づき、身のまわりからかけ算の場面を見つけようとしている。《観察・発言》
②何ばいと かけ算	4	10~11	○基準量のいくつ分という見方をもとに何倍の意味を理解し、かけ算の用いられる場面について理解を深める。	・倍の意味とその見方、2倍や3倍、1倍 《ばい》	(知技)倍の意味を知り、倍の場面についてもかけ算の式で表されることを理解している。《観察・ノート》 (思判表)基準量の何倍かを考えたり、それをかけ算の式に表したりしている。《観察・発言》
③かけ算の 九九	5	12~13	○乗数が1ずつ増えると答えが5ずつ増えることを使って、5の段の九九を構成することができる。	・5の段の九九の構成 《かけられる数、かける数、九九》	(思判表)乗数が1ずつ増えると答えが5ずつ増えることに気づき、5の段の九九を構成している。《発言・ノート》
	6 ・ 7	14	○5の段の九九の唱え方を知り、九九のカードをつくるなどして九九を練習する。(第6時) ○5の段の九九を用いて、適用題を解く。(第7時)	・5の段の唱え方と練習 ・5の段の適用題	(態度)九九のよさに気づき、粘り強く身につけようとしている。《発言・観察》 (知技)5の段の九九を身につけ、それを用いて適用題を解くことができる。《ノート》
	8 ・ 9	15~16	○2の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第8時) ○2の段の九九を用いて、適用題を解く。(第9時)	・2の段の九九の構成 ・2の段の九九の唱え方と練習 ・2の段の適用題	(思判表)乗数が1ずつ増えると答えが2ずつ増えることに気づき、2の段の九九を構成している。《発言・ノート》 (知技)2の段の九九を身につけ、それを用いて適用題を解くことができる。《ノート》
	10 ・ 11	17~18	○3の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第10時) ○3の段の九九を用いて、適用題を解く。(第11時)	・3の段の九九の構成 ・3の段の九九の唱え方と練習 ・3の段の適用題	(思判表)乗数が1ずつ増えると答えが3ずつ増えることに気づき、3の段の九九を構成している。《発言・ノート》 (知技)3の段の九九を身につけ、それを用いて適用題を解くことができる。《ノート》
	12 ・ 13	19~20	○4の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第12時) ○4の段の九九を用いて、適用題を解く。(第13時)	・4の段の九九の構成 ・4の段の九九の唱え方と練習 ・4の段の適用題	(思判表)乗数が1ずつ増えると答えが4ずつ増えることに気づき、4の段の九九を構成している。《発言・ノート》 (知技)4の段の九九を身につけ、それを用いて適用題を解くことができる。《ノート》

	14	21	○基準量が後に示された問題を、かけ算の式に表して九九を使って解決する。	・基準量が後に示されたかけ算の問題	(思判表)1 つ分の数のいくつ分かに着目して、かけ算の式がどうなるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
●れんしゅう	15	22	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
学びのまとめ	16	23	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)

11 かけ算(2)					
目 標					指導時数・時期
○ かけ算九九についての理解を深め、アレイ図を使った活動を通して6から9の段や1の段の九九を構成したり、かけ算を使って問題を解決したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					13時間 2学期制：11月中旬～11月下旬 3学期制：11月上旬～11月下旬
評 価					
(知)・九九とその構成の仕方を深く理解し、6から9の段や1の段の九九を暗唱したり、乗法の適用場面を式に表して答えを求めたりすることができる。					
(思)・かける数が1増えると積はかけられる数だけ増えることに着目し、九九を構成することができる。					
(態)・かけ算九九の構成に進んで関わり、ふり返りを通して累加の簡潔な表現としてかけ算の式にかくことや九九のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	120	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「かけ算(1)」	
(課題設定)	1	24	○アレイ図を使ってかけ算を構成していくという単元の課題をつかむ。(第1時)	・6、7、8、9、1のだんの九九の学習の動機づけ	(思判表)アレイ図から乗数が1ずつ増えると答えが6ずつ増えることに着目し、6の段の九九を構成している。《発言・ノート》
①九九づくり	2	25～26	○6の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第1時) ○6の段の九九を用いて、適用題を解く。(第2時)	・6の段の九九の構成 ・6の段の九九の唱え方と練習 ・6の段の適用題	(態度)九九のよさに気づき、粘り強く身につけようとしている。《発言・観察》 (知技)6の段の九九を身につけ、それを用いて適用題を解くことができる。《ノート》
	3	27～28	○7の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第3時)	・7の段の九九の構成 ・7の段の九九の唱え方と練習	(思判表)アレイ図から乗数が1ずつ増えると答えが7ずつ増えることに着目し、7の段の九九を構成している。《発言・ノート》
	4		○7の段の九九を用いて、適用題を解く。(第4時)	・7の段の適用題	(知技)7の段の九九を身につけ、それを用いて適用題を解くことができる。《ノート》
	5	29～31	○これまでの学習をもとに8の段、9の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第5時)	・8の段の九九の構成 ・9の段の九九の構成	(思判表)乗数が1ずつ増えると答えが被乗数だけ増えることに着目し、8の段と9の段の九九を構成している。《発言・ノート》
	6		○8の段の九九を用いて、適用題を解く。(第6時)	・8の段の九九の唱え方と練習	(知技)8の段と9の段の九九を身につけ、それを用いて適用題を解くことができる。《ノート》
	7		○9の段の九九を用いて、適用題を解く。(第7時)	・9の段の九九の唱え方と練習 ・9の段の適用題	
	8	32	○基準量が1のときのかげ算の意味を理解し、1の段の九九を構成する。	・被乗数が1のかげ算の立式 ・1の段の九九の構成と唱え方と練習 ・1の段の適用題	(知技)乗数が1の場面についてもかけ算の式で表されることを理解している。《発言・観察》 (知技)1の段と九九を身につけ、それを用いて適用題を解くことができる。《ノート》
	9	33	○問題づくりを通して、かけ算の理解を深める。	・かけ算の問題づくり	(思判表)かけ算で表される場面を正しく判断し、かけ算の問題を考えたり、かけ算になるわけを説明したりしている。《発言・観察》 (態度)かけ算のよさに気づき、身のまわりからかけ算の場面をみつけようとしている。《観察・発言》
●れんしゅう	10	34	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
②かけ算をつかったもんだい	11	35	○乗法と加法、乗法と減法が組み合わされた3要素2段階の問題を解く。	・乗法と加法、減法を組み合わせた問題	(思判表)順序よく考えて、乗法と加法や減法を組み合わせ問題で問題を解決している。《発言・ノート》
③図やしきをつかて	12	36～37	○同じ数のまとまりに着目して、L字型に並んだものの数をかけ算を使って求めることができる。	・L字型に並んだ●の数をかけ算を使って求める問題	(思判表)絵をみて同じ数のまとまりを見だし、数の求め方を図やかけ算の式を使って考えたり説明したりしている。《観察・ノート》 (態度)基準量のいくつ分という見方のよさに気づき、生活や学習にかかそうとしている。《ノート・発言》
学びのまとめ	13	38～39	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

12 三角形と 四角形

目 標		指導時数・時期			
○ 三角形や四角形について、観察を通してその分類や意味を理解し、構成要素を調べたり図形を構成したりすることを通して平面図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		10 時間 2 学期制：12 月上旬～12 月中旬 3 学期制：11 月下旬～12 月中旬			
評 価					
(知) ・三角形や四角形、及び、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解し、それらを弁別したり、点を直線でつないだり紙を折ったり方眼紙を使ったりして構成することができる。					
(思) ・直線の数や辺の長さや直角に着目して、三角形や四角形の特徴や性質をとらえたり、敷き詰め方を考えたりしている。					
(態) ・三角形や四角形の考察に進んで関わり、ふり返りを通して直線の数や辺の長さや直角に着目することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	120	○既習事項の理解を確かめる。	・1 年「いろいろなかたち」	
(課題設定)	1	40	○動物を直線で囲む操作を通して、三角形と四角形の意味を知る。	・点をつなぐ形づくりによる学習の動機づけ	(思判表)図形の構成要素に着目して、仲間分けしている。《発言・観察》 (知技)三角形と四角形について理解し、点を直線でつないでつくることができる。《観察》 (態度)図形の直線の数に着目するよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《発言・ノート》
		41～42	○三角形と四角形について調べていくという単元の課題をつかむ。	・三角形の定義・点構成・線構成、四角形の定義・点構成・線構成 《三角形、四角形》	
①三角形と 四角形	2	43	○三角形と四角形の弁別を行い、それらの構成要素について調べる。	・三角形、四角形の弁別 《辺、ちょう点》	(思判表)三角形や四角形といえるわけを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)三角形と四角形の頂点や辺について理解している。《ノート》
	3	44～45	○三角形や四角形の紙を 2 つに切って三角形や四角形をつくり、三角形や四角形についての理解を深める。 ○身のまわりから、三角形や四角形の形をしたものをみつける。	・三角形、四角形の面構成(三角形や四角形の紙を切る) ・算数探しの活動(身のまわりの三角形や四角形)	(思判表)切り方によってできる形が違うことに気づき、どのような形ができるかを考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (態度)身のまわりから三角形や四角形を見つける活動に進んで取り組んでいる。《発言・ノート》
②長方形と 正方形	4	46	○かどの形づくりを通して、直角の意味を知り、身のまわりから直角を見つめる。	・直角づくりとその定義 《直角》 ・算数探しの活動(身のまわりの直角)	(知技)紙を折ってかどの形をつくることを通して、直角の意味を理解している。《観察》 (態度)直角に着目するよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《発言・ノート》
	5	47	○紙を折ることによる長方形の形づくりを通して、長方形について理解する。	・長方形づくりとその定義や性質 《長方形》	(知技)紙を折って長方形をつくることを通して、長方形の意味を理解している。《観察》 (思判表)辺の長さに着目して、長方形の性質を調べている。《発言・観察》
	6	48～49	○長方形の紙を切ることによる正方形の形づくりを通して、正方形について理解する。	・正方形づくりとその定義や性質 《正方形》 ・算数探しの活動(身のまわりの長方形や正方形)	(知技)かどの形や辺の長さに着目してできた形の特徴を調べ、正方形の意味を理解している。《発言・観察》 (思判表)長方形や正方形かどうかを判断し、そのわけを説明している。《発言・ノート》
	7	50	○長方形や正方形の紙を斜めに切ることによる直角三角形の形づくりを通して、直角三角形について理解する。	・直角三角形づくりとその定義 《直角三角形》	(態度)かどの形や辺の長さに着目すればよいことに気づき、できた三角形の特徴を調べようとしている。《観察・発言》 (知技)直角三角形について理解し、弁別することができる。《発言・ノート》
	8	51	○方眼紙を使って、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。	・方眼紙を使った作図	(知技)定義にもとづいて、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。《観察・ノート》 (態度)正しく作図できたかを確認しようとしている。《観察・発言》
	9	52～53	○色紙を並べて長方形、正方形、直角三角形をつくり、その図形になるわけを説明することができる。 ○長方形、正方形、直角三角形を敷き詰めて、模様をつくり、いろいろな図形をみつけることができる。	・長方形、正方形、直角三角形の敷き詰め	(態度)正方形や長方形、直角三角形を並べていろいろな形や模様がつくれることに気づき、敷き詰め模様づくりに進んで取り組んでいる。《発言・ノート》 (思判表)敷き詰め模様をつくる活動を通して、平面の広がりを感じている。《観察》

学びのまとめ	10	54～55	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)
--------	----	-------	----------------	-----------------------	-----------------

思 見方・考え方を ふかめよう(3)「かっても まけても！」					
目 標					指導時数・時期
○ 文章題において、問題場面を図に表して数量の違いに着目して解法を考えることを通して、違いに着目した考え方を使得解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬
評 価					
(知)・数量の違いが示された場面について理解し、テープ図を2段に並べて数量の違いを表すことができる。 (思)・逆思考を必要とする問題について、数量の違いを線分図(テープ図)に表して、一方の数量が多いということはその分だけ他方の数量が少ないというように考えている。 (態)・2つの数量の違いが示された場面の問題解決に進んで関わり、ふり返りを通して数量の違いを線分図(テープ図)に整理して考えることよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	56～57	○2段のテープ図を使って2つの数量の違いに着目し、一方が多いということは他方が差の分だけ少ないと考えて、問題を解くことができる。	・求大の場面で小さい方の数量を求める逆思考の問題(□+a=b)	(思判表)2段に並べたテープ図を見て2つの数量の違いに着目し、多少の関係を考えている。《発言・ノート》 (態度)テープ図を2段に並べると数量の違いに着目しやすいことに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《発言・ノート》
	2	58～59	○2段のテープ図を使って2つの数量の違いに着目し、一方が少ないということは、他方が差の分だけ多いと考えて、問題を解くことができる。	・求小の場面で大きい方の数量を求める逆思考の問題(□-a=b)	(思判表)2段のテープ図にかいて数量の違いに着目し、多少の関係を正しくとらえている。《発言・ノート》 (知技)数量の違いを2段のテープ図に表すことができる。《ノート》

活 どんな計算になるのかな					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●どんな計算になるのかな	1	60～61	○根拠にもとづいて、かけ算の演算決定をすることができる。	・加法、減法、乗法の演算決定	(思判表)演算決定の根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》

活 何番目					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●何番目	1	62～63	○いろいろな順序数の問題を、図にかいて考えることができる。	・順序数と集合数の問題(全体と前後の関係)	(思判表)位置や順序に関する問題場面を簡潔な図に表し、前後にいくつあるかや何番目かを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》

* ふくしゅう					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	64～65	○既習事項の確認と持続	・復習	

13 かけ算の きまり					
目 標					指導時数・時期
○ かけ算九九について、九九の表の考察や九九の範囲をこえる乗法の計算の仕方を考えることを通して、乗法に関して成り立つ性質や九九の表のきまりを見いだしてかけ算の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					8時間 2学期制：1月中旬～1月下旬 3学期制：1月中旬～1月下旬
評 価					
(知)・九九の表の見方や乗法に関して成り立つ性質を理解し、簡単な2位数と1位数のかけ算の答えを求めることができる。 (思)・九九の表からいろいろなきまりを見いだしたり、簡単な2位数と1位数のかけ算の仕方を考えたりすることができる。 (態)・九九の表の考察に進んで関わり、ふり返りを通してかけ算九九のきまりのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	— 1	120 67	○既習事項の理解を確かめる。 ○九九の表を完成させ、九九のきまりについて調べるといった単元の課題をつかむ。 ○九九の表の見方がわかる。	・2年「かけ算(1)」「かけ算(2)」 ・九九の表づくりによる学習の動機づけ	(知技)九九の表の見方を理解し、つくることことができる。《観察》 (態度)九九の表に同じ答えがあることに気づき、ほかにもいろいろなことを進んで見つけようとしている。《ノート・発言》

①かけ算の きまり	2	68	○九九の表を使って、乗数と積の関係について調べる。	・乗数が1増えた時の積の増え方	(思判表)九九の表から乗数が1増えると積は被乗数だけ増えることを見いだしている。《発言・ノート》
	3	69	○九九の表を使って、乗法の交換法則について調べる。	・乗法の交換法則	(思判表)九九の表の同じ答えになっている部分に着目し、乗法における交換法則を見いだしている。《発言・ノート》
	4	70	○九九の表を使って、同じ答えがいくつあるかを調べる。	・同じ答えになるかけ算	(知技)九九の表から答えが同じかけ算の組をみつけることができる。《発言・ノート》
	5	71	○九九の表を使って、2つの段の答えの和や差について調べる。	・九九の2つの段の和や差(分配法則の素地)	(思判表)被乗数の和や差に着目し、2つの段の答えの和や差が別の段の答えになることを見いだしている。《発言・ノート》 (知技)2つの段の答えの和や差をとって、別の段をつくることができる。《ノート・発言》
②かけ算を 広げて	6	72	○簡単な(1位数)×(2位数)について、乗数と積の関係を使って答えを求めることができる。	・(1位数)×(2位数)の答えのみつけ方	(思判表)かけ算九九のきまりを使って、 $4 \times 12$ の答えの求め方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (態度)かけ算九九のきまりのよさに気づき、生活や学習でいかそうとしている。《ノート・発言》
	7	73	○簡単な(2位数)×(1位数)について、同数累加の考えや交換法則などを使って答えを求めることができる。	・(2位数)×(1位数)の答えのみつけ方	(思判表)かけ算の意味やきまりをもとに、 $12 \times 4$ の答えの求め方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》
学びの まとめ	8	74~75	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

14 100cmを こえる 長さ					
目 標					指導時数・時期
○ 100cmをこえる長さについて、新たな普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通して1m以上の長さのものを測ることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。					6時間 2学期制：1月下旬～2月上旬 3学期制：1月下旬～2月上旬
評 価					
(知)・長さの単位「m」について理解し、1mものさしを使って手際よく長さを測ったり、長さを「m」の単位を用いて表したりすることができる。					
(思)・大きな長さの単位の必要性に気づき、量感をもとに長さを予想したり適切な単位を判断したりしている。					
(態)・長さの測定や表し方の学習に進んで関わり、ふり返りを通して長さにあわせて適切な普遍単位を使うことや長さの量感を身につけておくことのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	121	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「長さ」	
(課題設定)	1	76	○両手を広げた長さを測り、100cmをこえる長さの別の表し方を調べるといふ単元の課題をつかむ。	・両手を広げた長さを調べることによる学習の動機づけ	(態度)100cmをこえる長さの測り方や表し方に関心をもって取り組むとともに、大きな長さの必要性に気づいている。《観察・発言》
		77			
	2	78	○長さの単位 m について知り、m 単位を使って長さを表すことができる。	・普遍単位 m の意味と測定 《メートル(m)、1m》	(知技)1mものさしの仕組みや1m=100cmであることを理解している。《観察》
	3	79	○1mの長さをテープなどでつくったり身のまわりからみつけたりして、1mの量感を身につけることができる。	・1mの長さづくり、1mの長ささがし(量感)	(態度)1mの長さの量感を身につけ、生活や学習にいかそうとしている。《観察》
	4	80	○1mの量感をもとにして、身のまわりの1mをこえるものの長さを見当づけたり測ったりする。	・身のまわりのものの長さの見当づけと測定	(思判表)1mの量感をもとに、身のまわりのものがどのくらいの長さかを判断している。《観察・ノート》 (知技)使うものさしや単位を適切に選択することができる。《ノート》
	5	81	○簡単な場合の1mをこえる長さの加減の計算ができる。	・長さの加減計算	(思判表)単位に着目して、長さの計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)簡単な場合の1mをこえる長さの計算ができる。《ノート》
学びの まとめ	6	82~83	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

\* ふくしゅう

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	84~85	○既習事項の確認と持続	・復習	

15 1000をこえる数					
目 標				指導時数・時期	
○ 1000 をこえる数について、そのよみ方やかき方を理解し、100 や 1000 を単位として数をとらえたり順序や大小について考えたりすることを通して、十進法の理解や数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				7 時間 2 学期制：2 月上旬～2 月中旬 3 学期制：2 月上旬～2 月中旬	
評 価					
(知) ・10000 までの数の表し方や仕組みを理解し、十進位取り記数法の仕組みをもとにして、10000 までの数を表したりよんだりすることができる。					
(思) ・10000 までの数について、1000 までの数と同じように、100 や 1000 などを単位としてそのいくつか分とみて表現している。					
(態) ・10000 までの数に進んで関わり、ふり返りを通して十進位取り記数法のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	121	○既習事項の理解を確かめる。	・2 年「100 をこえる数」	
(課題設定)	1	86	○1000 をこえる数の表し方や仕組みを調べていくという単元の課題をつかむ。	・1000 をこえる数の学習の動機づけ ・1000 をこえる数の数え方	(態度)既習の 1000 までの数と同じように、数のまとまりに着目して 1000 をこえる数を工夫して数えようとしている。《観察》
		87	○100 のまとまりを 10 個集めて 1000 のまとまりをつくと数えやすいことに気づくとともに、1000 をこえる数のよみ方を理解する。		(知技)1000 をこえる数の構成とよみ方を理解している。《観察・発言》
	2	88	○4 位数について、十進位取り記数法にもとづいて、数字で表したり数の構成を説明したりすることができる。	・10000 未満の数の表し方 《千のくらい》	(知技)4 位数を数字で表したり、4 位数の構成を説明したりすることができる。《観察・発言》 (知技)空位のある場合の 4 位数を数字で表すことができる。《ノート》
	3	89	○100 を単位として、そのいくつかになるかを考え、数の相対的な大きさをとらえることができる。	・100 を単位とする数の相対的な見方	(思判表)100 を単位にして、数の大きさを考えている。《観察・ノート》 (知技)100 を単位にした数の構成や分解ができる。《ノート・発言》
	4	90	○1000 のまとまりをつくって数える操作を通して、10000 という数の構成や数の系列をとらえることができる。	・10000 という数の意味、構成 《一万》	(知技)10000 のまとまりを数えることを通して、10000 という数の大きさをとらえることができる。《観察》
	5	91	○数直線の見盛りの大きさに着目し、10000 までの数の系列や順序、大小関係について理解することができる。	・10000 までの数の系列・数直線 ・10000 までの数の大小比較	(思判表)数直線などを使って、数の系列や順序をいろいろにとらえている。《発言・ノート》 (知技)10000 までの数の大小関係を理解し、不等号を使って表すことができる。《ノート・発言》
●れんしゅう	6	92	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
学びのまとめ	7	93～94	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

16 はこの形					
目 標				指導時数・時期	
○ 箱の形について、観察を通して構成要素を調べたり、図形を構成したりすることを通して立体図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				5 時間 2 学期制：2 月下旬 3 学期制：2 月下旬	
評 価					
(知) ・箱の形とその構成要素について理解し、工作用紙やひご、粘土玉を使って、箱の形やさいころの形をつくることことができる。					
(思) ・箱の形の構成要素に着目して特徴をとらえたり、面、辺、頂点の位置やつながり方に着目して箱の形つくり方を考えたりしている。					
(態) ・箱の形の考察に進んで関わり、ふり返りを通して面、辺、頂点の数や位置に着目することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	121	○既習事項の理解を確かめる。	・1 年「いろいろなかたち」 ・2 年「三角形と四角形」	
(課題設定)	1	95	○いろいろな箱を観察して、箱の形について調べていくという単元の課題をつかむ。	・身のまわりの箱を観察することによる学習の動機づけ ・箱の形の面とその数	(態度)箱の形の観察を通して面に着目すればよいことに気づき、面の形や数について進んで調べようとしている。《観察・ノート》
①はこの形		96～97	○面の形を写し取り、箱の面について調べる。	《面》	(知技)箱の面の形や数について理解している。《観察・発言》
	2	98	○箱の辺や頂点について調べる。	・箱の形の辺、頂点とそれらの数 《辺、ちょう点》	(思判表)面以外の特徴に着目し、箱の辺や頂点について調べている。《観察》 (知技)箱の辺や頂点の数について理解している。《観察・発言》

②はこづくり	3	99	○面をつないで箱を作ることを通して、面の位置関係についての理解を深める。	・工作用紙を使った箱づくり（面構成）	(知技)箱を作るのに必要な面の形や数を理解している。《作品》 (思判表)形が同じ面や長さの等しい辺に着目して、箱をつくっている。《観察・発言》
	4	100	○ひごと粘土玉を使って箱の形をつくることを通して、辺や頂点の位置関係の理解を深める。	・ひごと粘土玉を使った箱の形づくり（線構成、点構成）	(知技)箱の形をつくるのに必要なひごの本数や長さ、粘土玉の個数を理解している。《作品》 (思判表)長さの等しい辺や頂点の位置に着目して、箱の形をつくっている。《観察・発言》
学びのまとめ	5	101～102	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 17 分 数

目 標					指導時数・時期
○ 分数について、半分をつくる活動を通して 1/2 の意味を理解し、1/2 の半分やさらにその半分の大きさを調べたり、もとの大きさと分数で表された大きさの関係を考えたりすることを通して、簡単な場合の分数の意味を理解することができるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4 時間 2 学期制：3 月上旬 3 学期制：3 月上旬
評 価					
(知) ・具体的な操作を通して 1/2 や 1/4、1/3 の大きさを理解し、その大きさをつくったり分数で表したりすることができる。					
(思) ・もとの大きさを基準として、その半分の大きさのつくり方を考えたり、つくった大きさを分数で表したりしている。					
(態) ・1/2 や 1/4、1/3 の大きさに進んで関わり、ふり返りを通して何等分かした大きさを分数で表すことのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	—	121	○既習事項の理解を確かめる。	・1 年「おなじかずつ」	
	1	103 104	○半分の大きさをつくり、その表し方について調べていくという単元の課題をつかむ。 ○半分の大きさのつくり方を考えることができる。	・半分に分けることによる学習の動機づけ ・正方形や長方形、円の紙を折って半分の大きさをつくること	(態度)半分の大きさをつくる活動に進んで取り組み、半分の大きさをいろいろつくっている。《観察》 (思判表)もとの大きさが同じなら、半分の形が違っても同じ大きさといえることに気づいている。《観察・発言》
	2	105	○テープを折って半分の大きさをつくることを通して、1/2 (二分の一) という表し方とその意味について理解する。	・1/2 の定義 《二分の一(2 分の 1)》	(知技)もとの半分の大きさを 1/2 と表すことを理解し、1/2 の大きさを選んだり、つくったりすることができる。《ノート・発言》
	3	106	○テープを折って半分の半分の大きさをつくることを通して、1/4 (四分の一) という表し方とその意味について理解する。 ○1/8 について知る。	・1/4 の定義、分数の定義 《分数》 ・1/8 の定義	(知技)もとの半分の半分の大きさを 1/4 と表すことを理解している。 《観察・発言》 (思判表)1/2 や 1/4 の場合から帰納的に考え、もとの大きさを 8 等分した 1 つ分は 1/8 と表せることに気づいている。《観察・発言》
	4	107	○1/3 について知り、1/3 の大きさを図に表すことができる。	・1/3 の定義	(知技)もとの大きさを 3 等分した 1 つ分を 1/3 と表すことを理解している。《観察・発言》 (態度)分数を使うと、もとの大きさのどれだけにあたるかを表せるよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《観察》
	5	108～109	○もとの大きさとその 1/2 の大きさの関係を調べたり、もとの大きさが違うときの 1/2 の大きさを比べたりする。	・図を使って 1/2 にあたる数を求める問題	(知技)図を使って 1/2 の大きさを表すことができる。《ノート・発言》 (思判表)もとの大きさが違うと 1/2 の大きさも違うことに気づき、そのわけを説明している。《ノート・発言》

## 活 わくわくプログラミング

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	110～111	○ロケットを目的地まで動かすプログラムをつくる活動を通して、向きの概念や簡単なプログラミングの考え方を理解する。	・プログラムによる前進と左右の回転を組み合わせた移動	(思判表)ロケットの向きに気をつけながら、目的地まで動かすプログラムを考えている。《発言・ノート》

**活 よみとる 算数**

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	112～113	○日記から必要な情報をよみ取り、いろいろな問題を解決する。	・長文を読み取り、情報を選択して活用する問題	(思判表)情報をよみとって、ある事柄が正しいかどうかを判断して説明している。《発言・ノート》 (知技)問題を解くのに必要な情報を文章の中から選択することができる。《発言・ノート》

**\* もう すぐ 3年生**

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	114～115	○2年生の学習内容の確認と持続	・復習	
	2	116～117			
	3	118			

**★ 学びの サポート**

ページ	学習内容	指導時数
119～121	・じゅんぴ	
122～127	・もっと れんしゅう	
130～131	・学びを つなげよう	

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。  
すべての児童が一律に学習する必要はありません。